

第二言語としてのオランダ語教師に求められる能力について

※「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究—報告書—」(平成23年3月, 社団法人日本語教育学会)に従い, 以下, 第二言語としてのオランダ語教師を「NT2教師」とする。本資料は, 上記報告書から第二言語としてのNT2教師に求められる能力に関する記載の抜粋。

A: 職業に関する能力

A.1 言語使用者

- A.1.1 NT2教師はオランダ語を流暢に使える者でなければならない
- A.1.2 教師はその言葉遣いを様々なレベルの学習者に合わせるができないなければならない

A.2 言語観察者

- ・NT2教師は, 言葉の使い方や構造の規則を理解し, 適切な運用ができる者でなければならない

<必要な知識・能力>

- ・言語行為と運用の知識を持っていること
- ・オランダ語を母語としない学習者に教えるための文法書に記載されているオランダ語の構造特徴を知っていること
- ・異なる背景や能力を持つ学習者に合わせ, 有用性, 頻度, 実現可能性などを考えた上で, 上述の知識の中から適切なものを選択する能力
- ・学習者の発話や作文を分析し, それに基づいて適切なフィードバックを与える能力
- ・学習者が接触する, あるいは接触する可能性のある, 実際のオランダ語の使用状況を分析し, 学習事項としてふさわしいかどうかを識別する能力
- ・以上の事柄に関する判断や行為に対し, 理由付けをする能力

A.3 学習者の初期状況の把握者

- ・NT2教師は, 各学習者の初期の状況(民族的背景と文化的背景, 家庭的状況, 学歴, 価値観・願望・ニーズと目標, 言語の学習行為, オランダ語能力, 他言語の学習経験)を把握し, それに合わせた教育計画を立てることができないならない。

<実践的能力>

- ・グループ編成, 教材の適否判断・変更, グループ内の区別, 学習者を他のグループあるいは組織に移すこと

A. 4 学習プロセスにおける指導者

- ・NT 2 教師は、よりよい教育環境を作るために、その専門と教授法に関する知識を十分に持っているなければならない

<必要な知識>

- ・学習観。学習観の、コースや教材における具現化
- ・言語観。言語観の、教材における具現化
- ・言語学習過程に関する主要な説
- ・IT を用いた学習方法、それを評価する基準
- ・自律性を促進する方法
- ・教育プロセスを妨げる、または促す要素 等

<実践的能力>

- ・必要なサブスキルに配慮しつつ、短期及び長期の機能的目標を策定し、自身の教育活動において実施し、学習者に明示する能力
- ・目標に合った教材を選び、必要に応じて追加教材を選び、整理する能力
- ・適切な方法で、教授方法やグループ編成方法を選び、実行する能力

A. 5 評価者

- ・NT 2 教師は教育課程における評価の重要性を認識し、責任を持って学習者の言語的発達と学習行動に関する情報を収集し、正しく分析し、更に、それに基づいて短期または長期計画に関する決断を出せる者でなければならない

<必要な知識>

- ・達成度の測定方法、レベルの決め方
- ・標準テスト
- ・テスト作成
- ・テストスコアの解釈方法
- ・自己評価の役割とその扱い方

<実践的能力>

- ・目標に合った適切かつ多様なテストとアセスメント方法を使用すること
- ・学習者に対し、教育的なフィードバックを与えること
- ・学習者に振り返りをさせ、それに基づいて学習における優先順位をつけさせることにより、自身の学習行動や言語能の発達に対する気付きを促すこと 等

B：NT 2 教師の一般的能力

B. 1 教育能力

- ・NT 2 教師は刺激的な指導をし、親切で協力的な雰囲気を作り、コミュニケーションしやすい学習環境を提供しなくてはならない。クラスの中で安心できる環境を作ることによって学習者の解放感を促進すべきである。

B. 2 組織的能力

- ・NT 2 教師は明確で刺激的で行儀の良いタスク指向の雰囲気を作り、情報の管理と整理における計画性を示さなければならない。

B. 3 同僚と協力する能力

- ・NT 2 教師は同僚と協力する責任感があり、施設の教育的環境、仕事環境や施設内の組織環境にプロとしての貢献ができるだけの十分な知識と能力を持たなくてはならない。

B. 4 自己反省と発達する能力

- ・NT 2 教師は常に自分の職業意識やプロとしての能力を見直さなくてはならない。仕事は現代的なやり方で行い、常に発展を図ろうとしなくてはならない。

B. 5 周りの人と協力する能力

- ・NT 2 教師は学習者と教育機関のために、同僚とともに、各種機関との協力に貢献しなくてはならない。

C：NT 2 教師の専門的能力

- ・特に高い専門性を求める場合に必要能力であり、NT2 教師全てに当てはまるわけではない。

C. 1 識字化教師

- ・識字化教師は、ここまで基本として説明されている能力以外に、特に低学歴の学習者との接触が上手で初歩の読み書きの教授法を習得していなくてはならない。

<必要な知識>

- ・非識字者が体験する問題
- ・「読み書きができないこと」と「他言語の読み書きができない」の違いと、その違いが教育に与える影響 等

<実践的能力>

- ・基礎的な学習能力と学校の慣習に関する経験が全く、あるいは、ほとんどないというなことを踏まえ、適切な行動を取ること
- ・学習者の能力（教育に関係のない能力も含む）を理解し、企業や社会的機関での研修の可能性について助言すること 等

C. 2 市民統合プログラムまたは二元プログラム（言語と職業の統合教育）の教師

- ・言語と職業の統合教育（市民統合プログラムにおける言語教育も含む）のNT 2教師は、職業内容が中心にあり、職業教育、実践的要素、職業言語の発達が一致し調和した形で、学習者の第二言語習得を適切に促進する責任を意識しなくてはならない。

NT 2教師は、職業訓練関係の教師や実践的指導者と協力しなくてはならない。

<必要な知識>

- ・内容重視の言語学習方法、その基盤となる原理、等

<実践的能力>

- ・職業訓練関係の教師や実践的指導者と協力しながら教材を作ること。その際、学習者のレベルを参考に、達成すべき目標に基づいて教材を作成すること
- ・実際の仕事における学習者の行動を観察し、評価すること 等

C. 3 市民統合プログラムの教師

- ・市民統合プログラムのNT 2教師は市民統合テストとオランダ語国家試験（NT 2）の内容に合わせた第二言語学習プログラムを作成する能力を持たなくてはならない。その作成においては、学習者の初期の状況と目標を考慮しなければいけない。学習者のレディネスを基に計画を立て、学習者が目標とする社会参加と、市民統合テストとオランダ語国家試験の内容を考慮し、そこから学習者のニーズにつなげていく能力が求められる。必要に応じ、市民統合プログラムのオランダ語以外の目標とのつながりを守らなくてはならない。二元プログラムの実践的要素と関連付けて、目標を策定する能力を持たなくてはならない。市民統合プログラムにおける「オランダ社会の知識」に関する内容を、できるだけ言語教育に統合し、そのために他者と協力をする能力を持たなくてはならない。必要に応じて他の関係者（例えば実践的要素を担当するコーチや再統合カウンセラー等）と協力しなくてはならない。

<必要な知識>

- ・統合プログラム参加者のプロフィールによって決まる目標（例. 子どもの教育、就業、社会参加）
- ・市民統合テストとオランダ語国家試験で必要とされる言語レベル
- ・市民統合テストにおける、実践能力テストと中央試験の方法 等

<作成したコースの特徴>

- ・具体的な社会参加等、市民統合において重要とされる目標に添っていること
- ・ポートフォリオの作成、パフォーマンステスト、インターネット試験、社会知識試験、オランダ語国家試験等に対し、能率的かつ有効に準備できるようになっていること 等